



対がん協会報

公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階
☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <https://www.jcancer.jp/>

第701号 2021年(令和3年)
5月1日(毎月1日発行)

主な内容

- 2面 2020年がん検診の受診者減
5つのがん検診別に詳報
6面 2019年の国民健康・栄養調査
8面 2021年度の主なる事業計画

2019年度グループがん検診受診者 延べ1088万130人

前年度に続き約20万人減

減少傾向に 歯止めかからず

日本対がん協会は、グループ支部が2019年度に実施したがん検診についてとりまとめ、「2020年度版・がん検診年次報告書」を刊行した。2019年度にグループ支部が実施したがん検診(胃、子宮頸、乳、肺、大腸、子宮体、甲状腺、前立腺、肝胆膵腎の9つの検診)の受診者は延べ1088万130人で、18年度より18万5995(1.7%)の減少となった。発見したがんは1万2840件で、18年度より400件減った。=3面に関連記事

年次報告書は全国46支部のうち、がん検診の実施にかかわっている42支部を対象に年度ごとに調査してまとめている。先ごろ支部の協力を得て速報的に調査した2020年(暦年)のがん検診受診者は対前年比30.5%減の激減だったことから、来春に年次報告としてまとまる2020年度の受診者も同程度に大幅減となっている可能性が高い。2019年度は年度末が新型コロナ感染拡大の時期に重なってはいるが、おおむね近年の傾向を反映した「平時」の状況だったといえる。今後、2020年度と対比して「がん検診におけるコロナ禍」を評価していく基礎データになる。

胃がん検診、200万人割れ

受診者の減少幅は2年連続で約20万人となった。最近5年間をみると15年度の1174万3259人をピークに4年連続で減少している。19年度までの4年間で86万人減っており、減少傾向に歯止めがかかっていない。

受診者減は、とりわけ胃がん検診で著しい。2018年度は内視鏡検査を含めてかろうじて200万人台を維持していたが、19年度は190万1071人と、前年度よりも11万3534人減って、200万人を割り込んだ。

胃X線検査の受診者は182万8644人と、前年度より12万3645人の減。減少幅も年々拡大する傾向にある。発見がんもX線検査だけで1919件と、前

年度より192件少なく、発見率は0.01ポイント下がって0.10%となった。

近年、胃がん検診離れが進んでいるのに加え、厚生労働省が改訂した「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に沿って、検診間隔を逐年から隔年に延ばし、対象者を40歳以上から50歳以上に引き上げる自治体がわずかながら増えていることが影響しているとみられる。厚労省の指針通りの検診を実施する自治体が増えると、受診者の減少に拍車がかかることが懸念される。また、発見したがんの進行度にも影響が出る可能性がある。

大腸がん検診は増加

胃がん検診に次いで減少幅が大きかったのが肺がん検診で、前年度より8万770人減少して318万685人。発見がんは1433件で同87件減った。

3番目に減少幅が大きかったのは乳がん検診で、2万139人減の122万2811人。発見がんは62件減の3179件だった。ただ、発見率は0.26%と変わらなかった。近年の乳がん発症者の増加傾向を考えると、これまで受けていなかったり、受けていても不定期だったりした人が定期的に受診するようになると、発見率

もさらに上がると見込まれる。

一方、受診者が増えたのが大腸がん検診で、対前年度比2万5955人増の254万6998人。ただ、発見がんは120件減って4065件。発見率も0.17%から0.16%に0.01ポイント下がった。

◇ ◇

「2020年度版・がん検診年次報告書」は、2019年度のがん検診の実施状況と2018年度実施分の追跡調査結果を収録しています。問い合わせは日本対がん協会がん検診研究グループ(電話03-3541-4771)へ。

日本対がん協会支部のがん検診実施状況

(上段が2019年度、下段が2018年度)

	実施団体数	受診者数	前年度比	がん発見数	がん発見率
胃*	42	① 1,901,071	-113,534	2,019	0.11%
		② 1,828,644	-123,645	1,919	0.10%
	42	① 2,014,605	—	2,202	0.11%
		② 1,952,289	—	2,111	0.11%
子宮頸	42	1,239,229		171	0.01%
	42	1,251,616	-12,387	185	0.01%
乳	42	1,222,811		3,179	0.26%
	42	1,242,950	-20,139	3,241	0.26%
肺	42	3,180,685		1,433	0.05%
	42	3,261,455	-80,770	1,520	0.05%
大腸	42	2,546,998		4,065	0.16%
	42	2,521,043	25,955	4,185	0.17%
子宮体	15	22,624		43	0.19%
	15	23,100	-476	36	0.16%
甲状腺	3	1,002		2	0.20%
	3	2,463	-1,461	1	0.04%
前立腺	35	432,384		1,757	0.41%
	36	431,637	747	1,745	0.40%
肝胆膵腎	21	333,326		171	0.05%
	20	317,256	16,070	125	0.04%
合計		① 10,880,130	-185,995	12,840	—
		② 10,807,703	-196,106	12,740	—
		① 11,066,125	—	13,240	—
		② 11,003,809	—	13,149	—

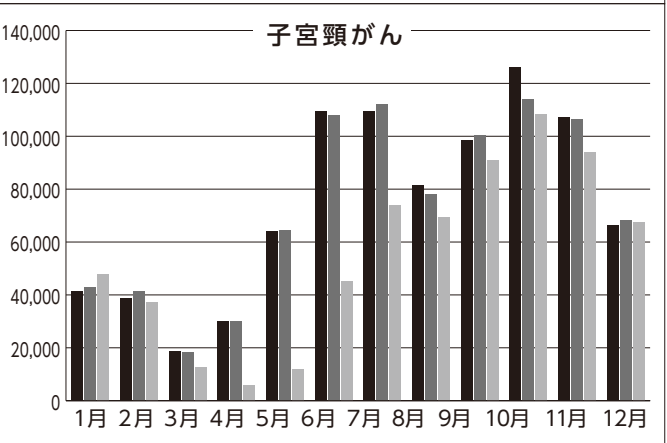
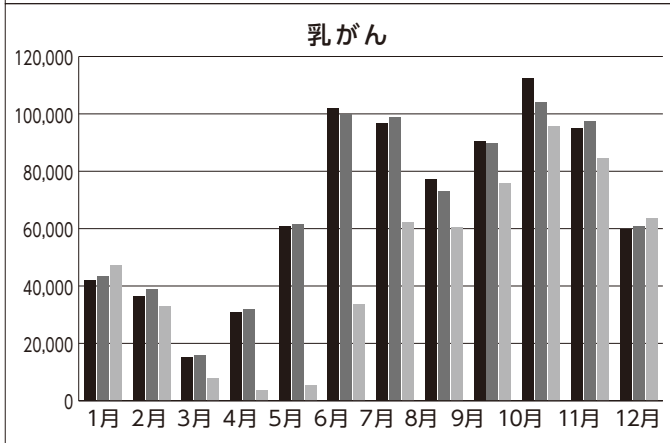
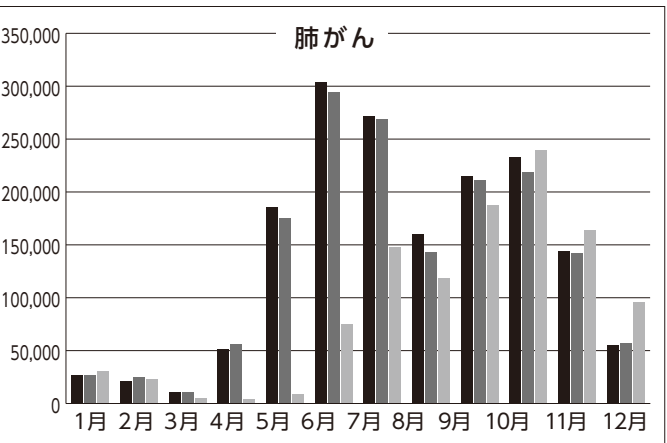
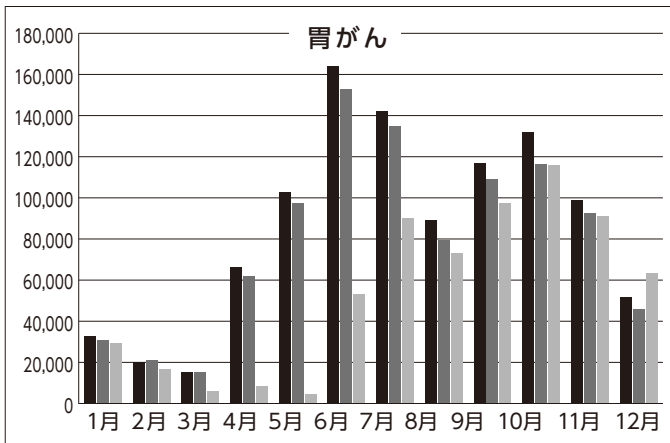
※「胃がん」と「合計」の上段・①にはX線検査と内視鏡検査を合わせた数値を、下段・②にはX線検査のみの数値を掲載している。

2020年 コロナ禍
支部対象3次調査の詳細

5つのがん検診 月別推移

5月の胃がん検診は前年同月比95.2%減、大腸がんは94.3%減

	年	1月受診者数	2月受診者数	3月受診者数	4月受診者数	5月受診者数	6月受診者数	7月受診者数
胃がん	2018	32,724	20,009	15,189	66,235	102,909	164,051	142,153
	2019	30,932	21,147	15,388	61,947	97,673	152,741	134,875
	2020	29,281	16,669	6,284	8,380	4,721	53,367	90,102
	2018年度比	89.5%	83.3%	41.4%	12.7%	4.6%	32.5%	63.4%
	2019年度比	94.7%	78.8%	40.8%	13.5%	4.8%	34.9%	66.8%
肺がん	2018	26,595	21,108	10,699	51,292	185,444	303,699	271,527
	2019	27,335	25,075	11,334	56,184	175,665	294,642	269,250
	2020	31,161	23,505	5,450	4,704	9,035	75,309	147,795
	2018年度比	117.2%	111.4%	50.9%	9.2%	4.9%	24.8%	54.4%
	2019年度比	114.0%	93.7%	48.1%	8.4%	5.1%	25.6%	54.9%
大腸がん	2018	40,630	30,077	13,635	52,277	119,487	234,996	206,455
	2019	42,706	33,305	15,502	51,503	120,914	229,036	210,402
	2020	39,368	27,296	6,928	11,708	6,890	76,804	141,565
	2018年度比	96.9%	90.8%	50.8%	22.4%	5.8%	32.7%	68.6%
	2019年度比	92.2%	82.0%	44.7%	22.7%	5.7%	33.5%	67.3%
乳がん	2018	42,074	36,590	15,334	30,842	60,680	102,121	96,662
	2019	43,528	38,699	15,701	31,746	61,522	99,909	98,940
	2020	47,266	32,831	7,817	3,633	5,355	33,578	62,343
	2018年度比	112.3%	89.7%	51.0%	11.8%	8.8%	32.9%	64.5%
	2019年度比	108.6%	84.8%	49.8%	11.4%	8.7%	33.6%	63.0%
子宮頸がん	2018	41,314	38,633	18,754	29,907	64,098	109,669	109,449
	2019	43,023	41,582	18,467	30,042	64,307	108,154	112,079
	2020	47,714	37,320	12,524	5,818	11,926	45,029	73,902
	2018年度比	115.5%	96.6%	66.8%	19.5%	18.6%	41.1%	67.5%
	2019年度比	110.9%	89.8%	67.8%	19.4%	18.5%	41.6%	65.9%

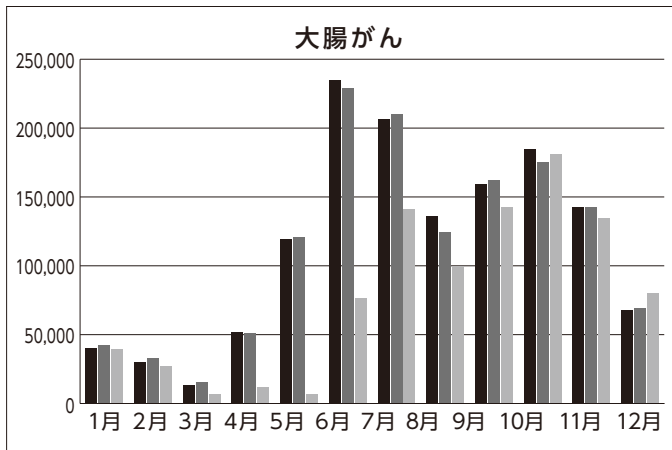


緊急事態宣言解除後、受診者数が回復へ

12月の肺がん検診は前年同月比167.6%、胃がん検診も137.7%に

	年	8月受診者数	9月受診者数	10月受診者数	11月受診者数	12月受診者数	1月-12月総受診者数
胃がん	2018	89,167	116,888	132,183	98,770	51,748	1,032,026
	2019	79,592	109,290	116,652	92,697	46,026	958,960
	2020	73,351	97,290	116,202	91,176	63,381	650,204
	2018年度比	82.3%	83.2%	87.9%	92.3%	122.5%	63.0%
	2019年度比	92.2%	89.0%	99.6%	98.4%	137.7%	67.8%
肺がん	2018	159,835	214,821	233,348	144,109	55,548	1,678,025
	2019	143,030	211,598	218,541	142,684	57,303	1,632,641
	2020	119,044	187,841	239,810	164,004	96,055	1,103,713
	2018年度比	74.5%	87.4%	102.8%	113.8%	172.9%	65.8%
	2019年度比	83.2%	88.8%	109.7%	114.9%	167.6%	67.6%
大腸がん	2018	136,103	159,654	184,723	142,753	67,838	1,388,628
	2019	124,775	162,581	175,398	142,853	69,699	1,378,674
	2020	100,110	142,588	181,379	134,381	80,160	949,177
	2018年度比	73.6%	89.3%	98.2%	94.1%	118.2%	68.4%
	2019年度比	80.2%	87.7%	103.4%	94.1%	115.0%	68.8%
乳がん	2018	77,296	90,340	112,407	95,042	59,795	819,183
	2019	72,947	89,822	104,103	97,555	60,996	815,468
	2020	60,571	75,945	95,804	84,651	63,690	573,484
	2018年度比	78.4%	84.1%	85.2%	89.1%	106.5%	70.0%
	2019年度比	83.0%	84.6%	92.0%	86.8%	104.4%	70.3%
子宮頸がん	2018	81,446	98,566	126,279	107,046	66,201	891,362
	2019	78,147	100,519	114,112	106,305	68,316	885,053
	2020	69,483	91,049	108,500	94,029	67,619	664,913
	2018年度比	85.3%	92.4%	85.9%	87.8%	102.1%	74.6%
	2019年度比	88.9%	90.6%	95.1%	88.5%	99.0%	75.1%

・32支部分（健診・検診実施支部42支部）・パーセントは2018年、2019年同月との対比です



■ 2018年
■ 2019年
■ 2020年

一覧表、グラフともに受診者数の単位は人。3次調査は今年2月から3月にかけ、がん検診にかかわる42支部に2020年の月別受診者数と発見がん数など尋ねる調査票を送り、32支部から回答を寄せてもらった。(概要は前号〈第700号〉1面に掲載しています)

累計受診者、4億人を突破

協会発足から約60年で到達

発見がんは46万4504に

2019年度に日本対がん協会グループが実施したがん検診を延べ1088万130人が受診したことで、1958年の協会発足以来の累計受診者数は4億965万3364人となり、4億人を突破した。協会組織のがん検診は協会発足2年後の1960年、最初の支部となった宮城県対がん協会が胃がん検診車で宮城県や秋田県、岩手県を巡回して集団検診をしたのが始まり。ここからおよそ60年かけて4億人の大台に到達した。

受診者累計が1億人を突破したのは1992年度。2億人突破は2001年度、3億人突破は2010年度だった。発見したがんの累計は46万4504になる(がん発見数は、2008年度まではがんの疑い例を含む)。

あなたのデザイン、そして言葉が「命」を守ります。

ピンクリボンデザイン大賞 5月9日から募集開始

ピンクリボン
フェスティバル
運営委員会(日
本対がん協会
他)は、第17回
ピンクリボンデ
ザイン大賞の作
品を5月9日



(日)から募集します。今、生涯で日本人女性の9人に1人が乳がんになるといわれています。乳がんは、早期に見れば治癒率が高いがんですが、検診受診率は国の目標である50%に届かず、まだ低い状況です。乳がんの早期発見の大切さを伝え、検診受診を呼びかけるとともに、正しい知識の習得と自分に合った適切な行動を促す作品を募集します。

ポスター部門はグランプリ作品1点、優秀賞2点、入選2点、特別企業賞としてキリンビバレッジ賞1点、中外製薬賞1点、富国生命保険賞1点。コピー部門は、グランプリ作品1点、優秀賞2点、入選2点を選びます。

グランプリには賞金を贈り、ポスター作品は交通広告などに使われます。

応募要項

【応募期間】 2021年5月9日(日)～6月30日(水)正午まで

【募集内容】 乳がんの早期発見の大切さを伝え、検診受診を呼びかけるとともに、正しい知識の習得と自分に合った適切な行動を促す作品。

【応募資格】 ①個人またはグループ。複数応募可。ただし、1作品ごとに応募(投稿)してください。

②プロ、アマ不問。ただし、応募者が未成年の場合は、必ず親権者の同意を得てください。

【応募概要】

●ポスター部門

下記①～⑥のいずれかを選択した、検診受診を促すポスターデザイン。

①元気に私に、騙されない。(第16回コピー部門グランプリ作品)

②早期は今だ。(第16回コピー部門優秀賞作品)

③「まさか、私が」と毎年9万人が言う(第16回コピー部門 優秀賞作品)

④さようなら。乳がんかもしれない私。(第16回コピー部門 入選作品)

⑤なんでもない日を守るために。(第16回コピー部門富国生命保険賞作品)

⑥ご自身のオリジナルコピー、もしくはコピーを使用しない。

●コピー部門

「キャッチフレーズ」もしくは「キャッチフレーズ+ボディコピー」。

「MY PINK ACTION」の5つの啓発カテゴリーをよく理解したうえで、あなたが一番大事だと思うことを言葉の力で呼びかけてください。

【応募方法】 WEBエントリーのみ。

【特別協賛企業】

キリンビバレッジ、中外製薬、富国生命保険

詳細は公式サイト(<https://www.pinkribbonfestival.jp/>)

ピンクリボン公式サイトを一新

2021年度の「ピンクリボンフェスティバル」が、いよいよ始まります！これに伴い、ピンクリボンフェスティバルの公式サイトがほぼ全面的に更新されました。スマートフォン専用の画面もあります。ホームページに訪れる皆様にご満足いただけるよう、様々な情報発信やコンテンツの充実に努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

公式Facebookでも順次、情報を更新してまいりますので、ぜひご覧ください。

ピンクリボンフェスティバルは、2003年より朝日新聞社などとともに各地で乳がんの早期発見・適切な治療の大切さを伝える活動を続け、今年で19年目を迎えます。乳がんで命を落とす方が一人でも減らせるよう、乳がん検診受診率の向上を目指し、さら

に、患者さんとそのまわりの人たちを支える活動にも取り組んでまいります！

また、「一人ひとりが年齢、考え方、生活様式や立場によって必要な情報が異なる」という課題に対応するため、2021年からは「MY PINK ACTION 知ろう、自分と乳がんのこと。」を新たなスローガンに設定しました。

ホームページ

(<https://www.pinkribbonfestival.jp/>)

フェイスブック

(<https://www.facebook.com/PinkRibbonFestival>)

ツイッター

(<https://twitter.com/pinkribbonfesjp>)

インスタグラム

(https://www.instagram.com/pinkribbonfestival_official/)

日本対がん協会賞、 朝日がん大賞

候補者
募集

2021年度の「日本対がん協会賞」と「朝日がん大賞」の候補者の募集を始めます。自薦・他薦は問いません。締め切りは6月18日(金)必着です。

「日本対がん協会賞」は、対がん運動に功績のあった個人および団体を顕彰する賞で、検診の指導やシステム開発、第一線の検診・診断活動、がん予防知識の普及や啓発活動などに、多年にわたって地道な努力を重ねた個人や団体が対象です。

「朝日がん大賞」は、日本対がん協会

賞の特別賞として2001年に朝日新聞社の協力を得て創設し、今年度21回目を迎えます。「がん予防」を中心に、がん医療・研究分野、画期的な医療機器の開発など幅広い分野を対象にしています。また患者・治療者を支える活動も視野に入れています。活動期間は問わず、第一線で活躍している個人・団体が対象です。

協会賞は個人・団体各数件、がん大賞は1件で、日本対がん協会内の選考委員会で選考します。受賞者は、9月1

日付で発表、9月8日(水)に宮崎市で開かれるがん征圧全国大会で表彰します。協会賞には盾と記念品、朝日がん大賞には、盾と副賞100万円を贈ります。朝日新聞紙上でも紹介されます。

応募についての詳細は日本対がん協会のホームページをごらんください。問い合わせは、「日本対がん協会賞」係(03-3541-4771)まで。

日本対がん協会
<https://www.jcancer.jp/recruit/12008>

がんサバイバーに学ぶ 前向きな生き方

「Changeの瞬間(とき)～ がんサバイバーストーリー」

放送開始から
1年

がん患者やがんサバイバーを応援するラジオ番組「Changeの瞬間(とき)～がんサバイバーストーリー」が放送開始から1年になりました。日本対がん協会の提供・協力・監修と小野薬品工業提供による、大阪・ABCラジオが制作している15分番組です。

フリーアナウンサーの八木早希さんがパーソナリティーとなり、がんを乗り越え、各方面で活躍しているがんサバイバーの方々を毎週ゲストに迎えて、生き方を学び、考える番組です。2020年4月5日にタレントの矢方美紀さん(乳がん)を迎えてスタートしてから、今年4～5月に出演した歌手・山本譲二さん(大腸がん)まで、この1年間で28人に出演していただきました。がんがわかった時の経緯や、どんな気持ちでがんに向き合うようになり、どんなきっかけで前向きになれたのか、体験を2週に分けて語ってもらっています。

大阪・ABCラジオ、東京・TBSラジオともに毎週日曜日の朝に放送してきましたが、この4月から、東京・TBSラジオの放送時間が土曜日朝に変わりました。

東京・TBSは土曜日朝の放送に



放送時間

大阪・ABCラジオ 毎週日曜 午前8時10分から
東京・TBSラジオ 毎週土曜 午前8時45分から

過去の放送・聴き逃し配信

Radiko(ラジコ)、LINE LIVEで放送後から1週間聴くことができます。また、番組公式ホームページ(https://www.abc1008.com/cancer_survivor/)では、収録時の映像を見ることもできます。

がん相談ホットライン 03-3541-7830

毎日受け付けています(祝日を除く)

時間は当分の間、10:00～13:00 15:00～18:00

社会保険労務士による「がんと就労」電話相談の予約はインターネットの専用フォームで受け付けます。がん専門医による相談は今年度休止します



社労士による電話相談

態勢縮小のため
電話が繋がりにくい
ことがあります。
何卒ご了承ください

喫煙者、受動喫煙ともに減少

厚労省

2019年の国民健康・栄養調査

厚生労働省はこのほど2019年の国民健康・栄養調査の結果をまとめた。このうち喫煙では、前年調査よりも習慣的に喫煙している人の割合が減少。望まずに自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)についても減っている。一方、習慣的にたばこを吸っている人の中で「たばこをやめたい」と思っている人の割合は前年よりも少なかった。

喫煙

2019年の調査時点で、「毎日たばこを吸っている」「時々吸う日がある」を合わせた習慣的に喫煙している人の割

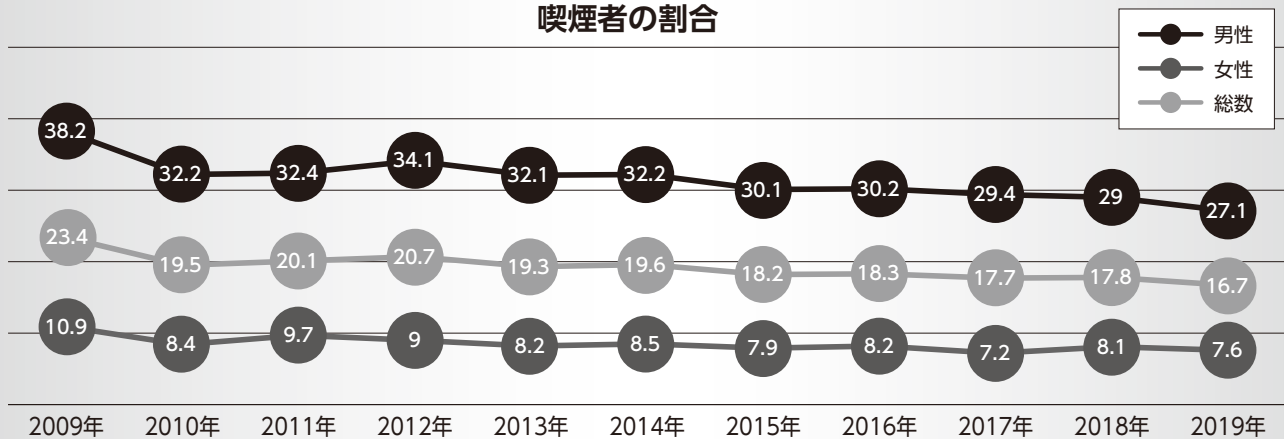
合は16.7%で、前年調査の17.8%より減った。男女別では、男性27.1%(前年29.0%)、女性7.6%(同8.1%)だった。10年間の推移をみると、習慣的に喫煙している人は男女ともに減っている。年齢別でみると、30~60代男性で習慣的に喫煙する人の割合が高く、3割を超えている。

習慣的に喫煙している人が使用しているたばこ製品の種類では、「紙巻きたばこ」の割合が男性79.0%(前年77.0%)。女性77.8%(同84.9%)と最も高く、「加熱式たばこ」の割合は、男性27.2%(同30.6%)、女性25.2%(同23.6%)だった。また、使用するたばこ製

品の組み合わせとして、「紙巻きたばこのみ」「加熱式たばこのみ」「紙巻きたばこと加熱式たばこ」で割合をみると、男性は71.8%、20.3%、6.9%(前年68.1%、22.1%、8.5%)となり、女性は72.6%、20.4%、4.8%(同76.1%、14.8%、8.8%)となった。

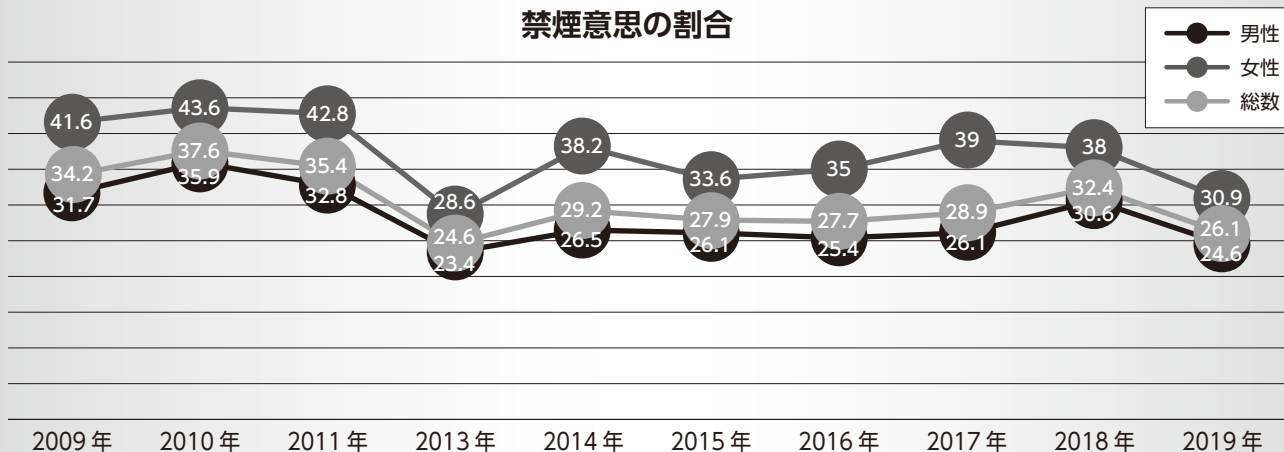
習慣的に喫煙している人のうち、「たばこをやめたい」と思う人の割合は、26.1%(前年32.4%)だった。男女別では、男性24.6%(同30.6%)、女性30.9%(同38.0%)で、この10年間では、女性では有意な増減はみられないが、男性では有意に減少している。

喫煙者の割合



現在、習慣的に喫煙している人の割合の年次推移(20歳以上)。2011年、2012年のは、これまでたばこを習慣的に吸ったことのある人のうち「この1カ月間に毎日、または時々たばこを吸っている」と回答した人。2009年、2010年は合計100本以上、または6カ月以上たばこを吸っている(吸っていた)人。

禁煙意思の割合



現在、習慣的に喫煙している人で、たばこをやめたいと思う人の割合の年次推移(20歳以上)。2012年は未実施。

受動喫煙

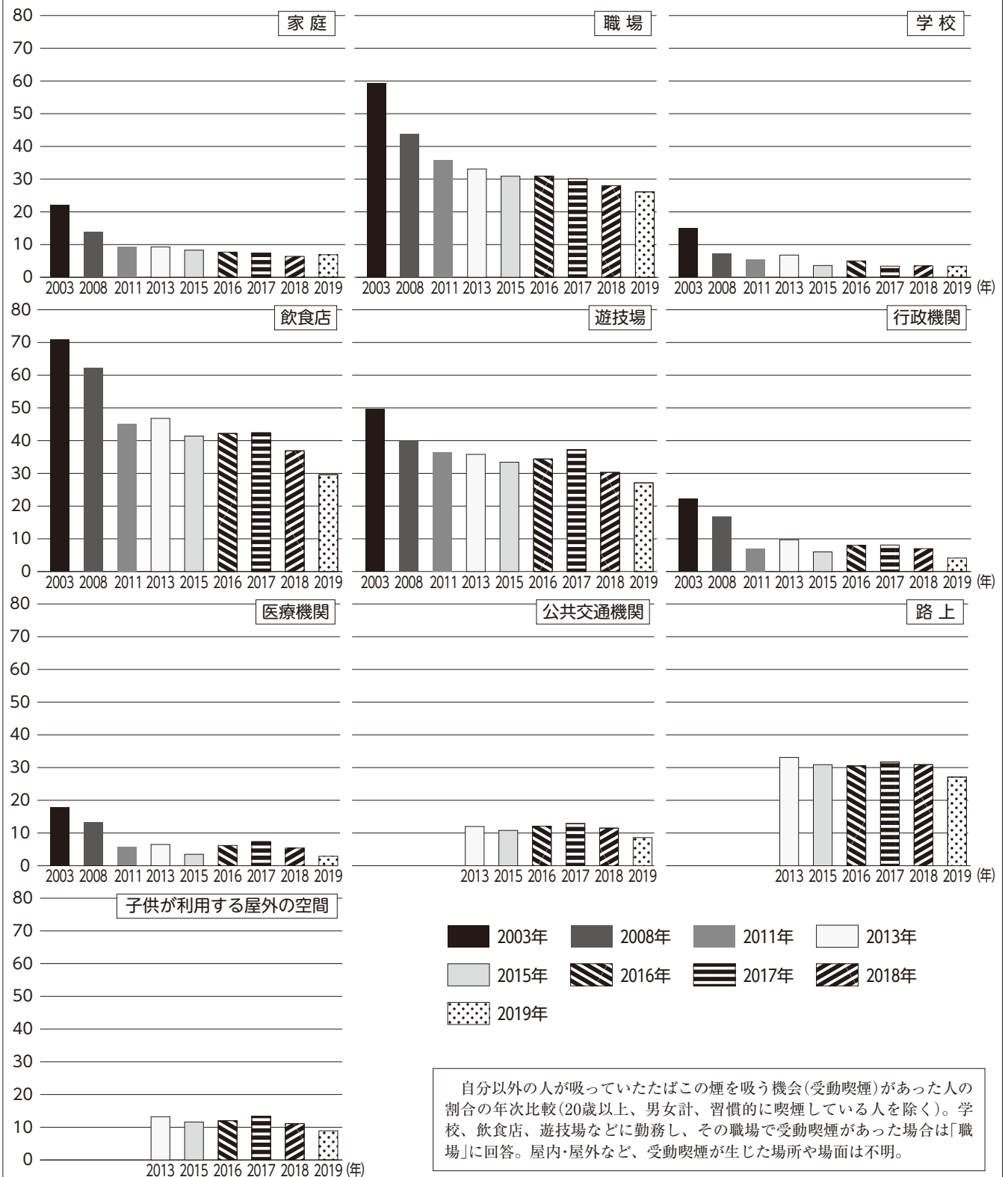
過去1カ月間で、望まずに自分以外の人吸っていたタバコの煙を吸う機会(受動喫煙)があったと答えた人の割合を場所別で見ると、「飲食店」が29.6%と最も高く、次いで「遊技場」「路上」が27.1%となった。続いて「職場」26.1

、「子供が利用する屋外の空間」8.9%、「公共交通機関」8.6%、「家庭」6.9%、「行政機関」4.9%、「学校」3.4%、「医療機関」2.9%となった。

2003年調査時の割合をみると、「飲食店」70.9%、「職場」59.2%、「遊技場」は49.7%、「行政機関」22.2%、「家庭」22.0%、「学校」14.9%だった。また、

2013年調査をみると、「路上」33.1%、「子供が利用する屋外の空間」13.2%、「公共交通機関」12.0%となっている。調査結果の推移をみると、いずれの場所でも、受動喫煙があったと答えた人の割合は減っている。

受動喫煙の状況



2021年度 事業計画

検診受診者の回復めざす

がん患者支援など新型コロナ対応にも重点

日本対がん協会は2021年度の実業計画をまとめ、3月の理事会で承認されました。22年度までの中期計画では、①科学的根拠にもとづくがん予防・がん検診の推進②がん患者・家族の支援③がんの正しい知識の普及啓発を活動の3つの柱に掲げています。一方、新型コロナウイルス感染症の影響で、20年度は変更を余儀なくされた事業もありました。21年度は、withコロナ時代に効果があげられるものに変革し、かつ選択と集中を行います。

がん予防については「一次予防の啓発とアクションの勧め」、がん検診については「コロナ禍で激減したがん検診受診者の回復」「検診受診率向上・精度管理向上」「将来の検診手法の研究」に力を入れます。特に21年度のがん検診受診者数回復は、例年以上に重要な社会課題です。

がん患者支援については、直接集まることによる支援活動が困難な状況が続くことを見越してオンライン化を加速します。リレー・フォー・ライフ(RFL)やがんサバイバー・クラブでは、リアル、オンラインそれぞれのメリットを生かしてコロナ禍で孤立するがん患者をつなぎ、支援の輪を継続し、広げます。無料がん相談は、コロナ禍だからこそ頼りにされるよう研鑽を積み、業務を継続します。休眠預金を生かした患者支援事業や、おとなのがん教育を通じた企業向けのがん患者就労促進など協働する団体や訴求対象を広げて目的達成をめざします。

正しい知識の普及啓発については、メディア記者との定例ミーティングを行い、幅広い層への啓発へつなげると同時に、協会の持つウェブサイトやSNSを活用してターゲットに向けたタイムリーな情報提供を行います。情報発信の起点となる協会報の記事内容を工夫し、関心を喚起します。

【グループ支部との連携】

コロナ禍で減少したがん検診受診者数の回復、がん検診受診率向上策、将来の検診手法の研究協力、RFLのオンラインを含めた各地での展開、各種広報活動には支部の協力が不可欠です。引き続き支部と強く連携します。特に、コロナ禍でのがん検診受診者数

アンケートなどを依頼し、分析・発信することで受診者増をうながすなど、対がん協会グループならではの活動を行います。

主な事業計画

① 科学的根拠にもとづく がん予防・がん検診の推進

【がん検診受診率向上、受診者拡大】

コロナ禍で減少した受診者の回復をめざします。予約システムの導入を勧めるとともに、ソーシャルマーケティングの手法を活用した受診勧奨対策を進めます。支部や自治体向けにオンライン勧奨チラシなどを用いた施策を実施、効果検証を繰り返し、全支部に活用を働きかけます。

【将来の検診手法研究への協力】

日本医療研究開発機構(AMED)の研究費で進めているマイクロRNAががんマーカーの研究が最終年(3年目)に入り、検診受診者への協力呼びかけに全力をあげます。また、AIなど新しい技術を使った検診手法開発に協力していきます。

② がん患者・家族の支援

【リレー・フォー・ライフ(RFL)】

withコロナを念頭に、オンラインの「RFLセルフウォークリレー」全国拡大。リアルイベントでは、参加者が夜通し歩くルールを「推奨」に変更。ZOOM等デジタルツールの活用、ホームページ・SNSによる情報発信、リレーヤー間の相互コミュニケーションを高めていきます。

【無料がん相談】

がん相談ホットラインでは、新型コ

ロナウイルス感染症の動向に応じ、実施日や受付時間を調整するなど感染防止策をとり、相談業務をストップさせないよう努めます。

【がんサバイバー・クラブ】

オンライン開催や動画配信で、患者家族を支援します。ジャパン キャンサー サバイバーズデイ2021は年間を通じた動画プラットフォームとして20本を目標に患者家族が必要とする情報を届けます。

③ がんの正しい知識の 普及啓発

【ピンクリボンフェスティバル】

新型コロナ対策のため、大規模リアルイベントは見送り、オンラインでの啓発活動に重点を置きます。啓発ポスターのデザインやコピーを公募するピンクリボンデザイン大賞を引き続き実施します。

【がん教育と企業向けセミナー】

課題である外部講師の確保で、講師派遣を支援します。研修を積んだがんサバイバーの協会職員の派遣、教育委員会と連携して講師育成も図ります。企業で重要になっているがん教育についても検討します。

【がん征圧月間】

がん征圧全国大会は9月、宮崎市で開催する予定です。スローガンは決定・公表を早め、4月から利用できるようにしました。

【各種啓発活動】

乳がん征圧の「ほほえみ基金」を生かし、がん検診無料クーポン券事業を実施します。乳房触診モデルの無料貸し出しは、新型コロナの動向をみながら再開をめざします。